

◎御講演 「今後の欧州情勢について」

外務省 欧州局長 正木 靖 氏

【大使の手紙】「アルジェリアの今と昔」

駐アルジェリア特命全権大使 藤原 聖也 氏

【会員のページ】「世相雑感」への会員の方のご投稿をお待ちしています



The Society for Promotion of Japanese Diplomacy

発行:(一社)日本外交協会 URL <http://www.spjd.or.jp>

平成29年 6月22日号

## 「今後の欧州情勢について」

外務省 欧州局長

正木 靖 氏

(平成29年5月19日 於日本記者クラブ)



激動する欧州が日本で今ほど注目を浴びている時期はないのではないのでしょうか。欧州の戦後と欧州連合(EU)が問われ、それは世界の現状を考える上でも象徴的な現象だと思いますので、今日は私の考え、見立てを少し詳しくお話しします。

最初はなぜ欧州でこういう状況が生じているのかです。EUは第二次大戦後に欧州人の知恵により創られ、その統合は戦後、比較的順調に進みました。しかし、統合の深化・拡大が急速に行われすぎて、現実が追いつかなかったことが、最大の構造的問題だったのではないかと考えています。

### EU統合深化・拡大のスピードが早すぎた

EU統合の深化というのは共通通貨としてのユーロ導入やブリュッセル本部の権限強化です。EU拡大は冷戦終結に伴い、中・東欧10カ国が2004年に加盟し、その後さらに3カ国が加盟して現在28カ国になったことです。英国が抜けると27になりますが、こういった深化、拡大のスピードが非常に早かったわけです。ユーロ導入時、私も欧州に赴任していましたが、最初はイタリア、フランス、ドイツが同じ通貨を使うことなど有り得ない、できっこないと高を括っていたら、本当に導入してしまっただ大混乱もなく、比較的順調にマネージしている。

では、なぜ問題が生じたか。一つは経済危機です。

問題の背景にあるということです。

もう一つは、後ほど詳しく述べますが、未曾有の難民流入とテロが大きかったと思います。近年の中東・北アフリカ情勢の流動化により、2015年1年間に欧州に100万人以上の難民が流入しました。そして、この2、3年テロが多発している。経済危機に加え難民、テロという社会不安が蔓延する中でEUに対する不信と懐疑派の台頭が見られるようになりました。経済危機や難民、テロの原因は何か、という時に「EUが悪いんだ」という単純な理屈が支持を得つつある。これが反グローバリズム、反エリート的主張です。

### 独仏英中心のEUの一体性が揺らぎ始めた

米大統領選でドナルド・トランプ氏が当選した時、反グローバリズムが注目されましたが、実は欧州議会選挙では2014年から極右が台頭し、英国のEU残留・離脱を問う国民投票も昨年6月と、トランプ氏当選の前でした。トランプ現象は、欧州で生じた反グローバリズムの波が米国にも出てきたということではないかと思っています。フランス大統領選挙や近く行われる英総選挙などの流れの中で、政治的に反EU、反グローバリズムが支持を得る背景が表れてきています。破滅的な戦争を経験したドイツとフランスが戦後、平和のために協調し、海を挟んで対抗勢

※ご注意: 会報は会員専用のサービスのため、ご購入いただくには、当協会にご入会くださいますようお願い致します。

ご入会は「入会のご案内」よりお問合せください。